

Givenness Hierarchyによる日本語データ

	IN FOCUS	ACTIVATED	FAMILIAR	UNIQUE	REFERENTIAL	TYPE	TOTALS
∅	87	1					88
<i>kare</i>	4						4
<i>kore</i>	1	1					2
<i>sore</i>		1					1
<i>are</i>							
<i>kono</i> N	1	7	1				9
<i>sono</i> N	18	15	1				34
<i>ano</i> N		1	1				2
N	14	32	17	71	45	44	223
TOTALS	125	58	20	71	45	44	363

Distribution of Japanese forms according to highest status.

データから引き出されるもの

	IN FOCUS
∅	87
kare	4
kore	1
sore	
are	
kono N	1
sono N	18
ano N	
N	14
TOTALS	125

- 焦点に入っている名詞句は大多数 (87/125) がゼロ代名詞
→ 無標表現

「そのN」(18/125)、
裸のN(14/125)

→ 何らかの要因がさらに働いている。

- すでに焦点に入っている人やものは意識されないという仮定を立てれば、「そのN」や裸のNは意識化させようということが絡んでいると考えられる。意識化させようとするにより、強調の効果が現れるのである。

データから引き出されるもの

	ACTIVATED	FAMILIAR
∅	1	
kare		
kore	1	
sore	1	
are		
kono N	7	1
sono N	15	1
ano N	1	1
N	32	17
TOTALS	58	20

- **Activated**
裸のN(32/58)が半分程度
「そのN」(15/58)が4分の1程度
ゼロ代名詞が1例のみ

Familiar
ほとんどが裸のNであり
(17/20)
「このN」、「そのN」、「あのN」が
それぞれ一例ずつ

「そのN」は基本的に話者と聞き手とが談話の場で共有しているものを意識化して用いられるととることが出来る。

↑
「その」は聞き手の縄張り内にあるものをさす

	IN FOCUS	ACTIVATED	FAMILIAR	UNIQUE	REFERENTIAL	TYPE	TOTALS
∅	87	1					88
<i>kare</i>	4						4
<i>kore</i>	1	1					2
<i>sore</i>		1					1
<i>are</i>							
<i>kono</i> N	1	7	1				9
<i>sono</i> N	18	15	1				34
<i>ano</i> N		1	1				2
N	14	32	17	71	45	44	223
TOTALS	125	58	20	71	45	44	363

Distribution of Japanese forms according to highest status.

- 「このN」: Activatedが大部分(7/9) 、In FocusとFamiliarが1例ずつあるのみ
→「この」は話者の縄張り内にあるものをさすので、活性化されているが、まだ十分に聞き手に意識されていないものをさす。
- 裸のNはどのタイプのものにも用いられる。
→Nだけで指せば十分
意識化を軽くさせるときに用いられる